

まごころ鯉のぼりプロジェクト

深谷市赤十字奉仕団(吉田光枝委員長)は、深谷市PTA連合会及び新潟県長岡市立川口小学校の協力を得て、東日本大震災で甚大な被害を受けた岩手県田野畑村の村立田野畑小学校に鯉のぼりを掲げました。

田野畑村は旧川本町の友好都市で合併後深谷市へ引き継がれた経緯から、鯉のぼりは旧川本町を中心に集められました。全国的に被災地への支援の輪が広がる中、深谷市内外から約227匹の鯉のぼりが寄せられました。

集められた鯉のぼりには、市内小学校・中学校の児童・生徒や市民のメッセージが書き込まれ、深谷市のまごころとして田野畑村へ送られました。また、6年前の新潟県中越地震の際に

震源地となった、新潟県長岡市立川口小学校の児童からもメッセージが書き込まれ、新潟から田野畑村へ送られました。

田野畑村へ届けられた鯉のぼりは奉仕団員や田野畑小学校の児童の手で設置作業が行われ、4月29日正午、見事に被災地の空を泳ぎはじめました。設置作業に同行した元川口小学校長の桑原昭氏は、「あの時の感動が蘇った。今度は私たちが勇気付ける番です。」と涙ながらに話していました。

被災地では、徐々に復興が進んでいるものの、鯉のぼりを掲げるまでの余裕がない中、未来のある子供たちの健やかな成長を願い、こどもの日に合わせて、深谷市の善意が届けられました。地域コミュニティの象徴である小学校の空を元気に泳ぐ鯉のぼりを見た佐々木陽香ちゃん(5年生)は、「今年は鯉のぼりを見られるとは思っていませんでした。深谷市のみなさんに感謝します。」と話していました。



看護活動

NEWS▶

宣誓式～看護の道をめざす決意～

平成23年6月10日、さいたま赤十字看護専門学校において、第63回生の宣誓式を挙行了しました。2年生43名は、赤十字章の付したナースキャップを戴き、看護の道をめざす決意を力強く宣誓しました。そして、G線上のアリアの調べによってキャンドルサービスを実施しました。キャンドルはフローレンス・ナイチンゲールの看護の精神を受け継ぐ意味があります。そして、G線上のアリアはG線の弦だけで演奏する美しい調べです。63回生の誓いの言葉どおりに一本の道を進んでいこうとする学生たちがとても気高くそして力強く感じた時間でした。以下は63回生の「誓いの言葉」の抜粋です。

「誓いの言葉」

看護という同じ夢を志し歩んでいるこの道。
ひとりひとりが自らの目標を持ち日々努力してきた。
……中略……
看護の道を歩いていく限り、困難なこともあるだろう。
しかし、どんな時も笑顔を忘れず、仲間との絆を胸に、
この道を歩いて行く。
そして赤十字看護師として、患者様の心の痛みを共感でき、
明るい灯火となれるよう邁進していくことをここに誓う。

力強かったクラスの宣誓▶

